

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組を国内に還元する役割を担います。

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 研究・事例紹介	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 書籍等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」発行案内

市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「水辺の小さな自然再生」事例集が完成しました。本書は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が制作したものです。これまでニュースレターでも本書の特徴を紹介してきましたが、ここでは、玉井信行東大名誉教授（JRRN 顧問）に執筆いただいた「あとがき」での紹介文をお借りして改めて解説致します。

■第1章「水辺の小さな自然再生とは」では、1)自己調達できる資金で行うこと、2)多様な主体が参加しそれらの相互の協働が可能であること、3)修復と撤去が容易であること、という三つの条件を満たしている取組を「小さな自然再生」と呼ぼうと提案しています。

■第2章「水辺の小さな自然再生を行うための留意点」では、川を流れる水やその周辺の川原は、社会の中では法的に規定された上で人間に利活用されていることが最初に述べられています。ここでは、川が自然界の構成要素であるとともに、社会的な要素であるという両面に気を配る必要があることを教えています。

■第3章は事例紹介で、北海道から始まり、南へ移動する順番で13の川での事例が紹介されています。各事例では、最初に目的の項を掲げ、簡潔に目的が記され、また、きっかけや経緯も補足されています。本事例集は、簡潔な内容紹介、「現場のキーパーソン」などの囲み記事、生き活きとした人々の写真、文字部分と写真配置などの巧みなデザインなど、視覚的に親しみやすい書物となっています。

■第4章で紹介する座談会では、最初にこれまでの「小さな自然再生」を振り返る内容で編集委員関係者の肉声を聞きました。次いで、事業の円滑な展開を図るためには欠くことが出来ない行政の施策との連携、今後の更なる推進に向けて鍵となる考え方や具体策が議論されました。



→事例集ダウンロードページ

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/567.html>

まずはこの事例集を手にとってみてください。編集委員それぞれの現場での経験、アイデア、思いが伝わってくるはずです。そして本事例集が、全国の知恵や教訓を共有することの一助となり、地域に根差した川づくりの更なる推進に寄与すれば幸いです。

なお、本事例集は、(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。

※本冊子（製本版）の入手方法は、4月第二週にJRRN ホームページでご案内します。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 企画

桜のある水辺風景 2015

～あなたの一枚 写真募集中～

桜の美しい季節を迎えました。JRRN では、今年も皆様より 2015 年に撮影された「桜のある水辺写真」を募集し、それらを写真集としてご紹介させていただきます。沖縄から北海道まで、日本の水辺の魅力を再発見できるような素敵な桜の水辺写真をお待ちしております。



静岡県・稲瀬川



佐賀県・嘉瀬川



神奈川県・大岡川



愛知県・堀川

応募方法の詳細はこちらをご覧ください

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/558.html>

募集期間

5月31日(日)まで

「桜のある水辺風景 写真集」バックナンバーはこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

紹介写真：「桜のある水辺風景写真 2014」優秀作品 <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/480.html>

韓国・建設技術研究院(KICT)との河川再生に関わる技術交流報告(3/16-17)

2015年3月16日(月)～17日(火)、韓国の政府系研究機関「建設技術研究院(KICT)」所属の研究員3名が来日され、河川再生全般に関わる施策の変遷や考え方などについて、(公財)リバーフロント研究所及びJRRN事務局とともに意見交換を行いました。

また東京都内の河川再生現場、ならびに横浜市河川担当官のご協力を得て和泉川を視察し、限られた河川空間における河川環境改善や親水性向上、水辺の賑わい創出などについて意見を交わしました。

なお、「建設技術研究院(KICT)」は、JRRNが属するアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の韓国窓口であるKRRNの事務局を担い、JRRN/ARRN設立以降、継続的に技術交流を行っております。

JRRN事務局では、引き続きKICTとの交流を続けながら、日韓の河川再生分野の情報交流を図り、日本国内にその知見を還元してまいります。

■韓国・建設技術研究院(KICT)ホームページはこちら

<http://www.kict.re.kr/eng/>



KICT との技術交流の様子

(JRRN 事務局・和田彰)

2015 年春の ARRN 活動のご紹介(4 月 15 日～16 日、韓国・慶州)

毎年秋に開催してきたアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の二つの年次行事「ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」「ARRN 運営会議」を、本年は4月中旬に韓国の大邱市・慶州市で開催される第7回世界水フォーラムのサイドイベントとして実施することとなりました。

「第12回ARRN水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」では、ARRNメンバーによる河川再生の取り組みに関わる発表を通じ各国の情報共有を行う予定で、以下のページより詳細プログラムをご覧ください。

■第12回ARRN国際フォーラム案内ページ

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/571.html>

また、第10回目となる「ARRN 運営会議」では、ARRN規約(http://www.a-rr.net/about/docs/arrn_charter.pdf)に基づき、2015年のARRN活動計画や河川再生に関わる諸団体との連携強化について審議される予定です。

なお、ARRNは2006年11月に設立され、設立後6

年間は日本(JRRN)がARRN事務局を担い、その後3年間は中国(CRRN)が務め、今回のARRN運営会議において中国から韓国にARRN事務局が移管されます。

現地での活動の詳細は、JRRNニュースレターやホームページを通じて日本の皆様に報告し、アジアにおける河川再生の今を日本国内に還元してまいります。

■第7回世界水フォーラムのホームページはこちら



<http://eng.worldwaterforum7.org/main/>

■過去のARRN国際フォーラムの履歴はこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/category/arrn-forum>

■過去のARRN運営会議の履歴はこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/category/arrn-meeting>

(JRRN 事務局・和田彰)



あの日のあの川 リレー日記 ～第3話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第3話主人公 井坂 七星

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：埼玉県小畔川，入間川)

『川と私の繋がり』

いつのこと？：小中高校生時代

どこの川？：小畔川，入間川，Mohican River, Chao Phraya River 等

川は生まれた時から身近な存在だった。幼稚園のすぐそばには土手と川，小学校に上がってもその校庭の目の前には土手と川が広がり教室からの眺めはなかなか良いものだった。小学校の先生方からは他にはなかなかない非常に良い環境だと何度も言われていたが，「そうなんだろう」としか思っていなかった。大学に入ってこのゼミで川や水環境について学術的に学び，さらに川離れが進んでいると言われる現在から当時を振り返ってみれば，あまりに川が身近で生活の一部に自然となっていたあの環境はすごく幸せだったのかもしれないと思う。その後私は何度も引越しを経験し国内や海外の色々な場所を見てきた。その時はあまり気付かなかったが，そのどこにおいても川が近くにあったと今更ながら驚く。それ程人と川の繋がりは想像以上に強いものなのだろう。

【小畔川，入間川】

幼い頃近所にあった川は荒川水系の支流である小畔川と入間川である。いつも誰かしら土手を散歩していたり子供達が遊んだりしていた。夏になると川に遊びに出かけるのがすごく楽しみで，泳いだりザリガニやメダカを捕まえたりしていた。また，幼稚園や学校の授業の一環として川に出かけることも多かった。風揚げ，図画工作や理科の時間，持久走などで度々出かけていっていた。幼い頃の川の思い出の中でも最も印象に残っている出来事がある。小学校2年生の時のことだ。少し余談になるが，私はその時の担任の先生からのみ，何かする都度怒られると言っても過言ではない程特別な注意を払われていた。これを聞くと私を知っている人は皆驚くと思う。実際悪いことをいつもしていたわけではないのに明らか特別視をされていたので，逆に余程気に入られていたと思うほかない。ある日野外授業で川に出かけることがあり，先生から絶対に川に落ちないようにと注意を受けクラスで出かけていった。私はコンクリート護岸の傾斜に川を背にして座っていたのだが，そこから立ち上がる時に傾斜と重力に逆らえきれず，そのまま背中から川に落ちてしまった。その瞬間，川に落ちる恐怖ではなく，先生からまた怒

られる恐怖しかなかったことをよく覚えている。その時の先生の怒り様といったらこの上ないもので、1人で学校にトンボ帰りすることとなった。先生がこの記事を読んでいればまた怒られるに違いない。何故あの時怒鳴られたのかずっと分からなかったのだが、今となって考えてみれば、例え川の流れが緩く水深も浅かったとはいえ身の上を案じてのことだったのかもしれない。

【Mohican River (アメリカ)】

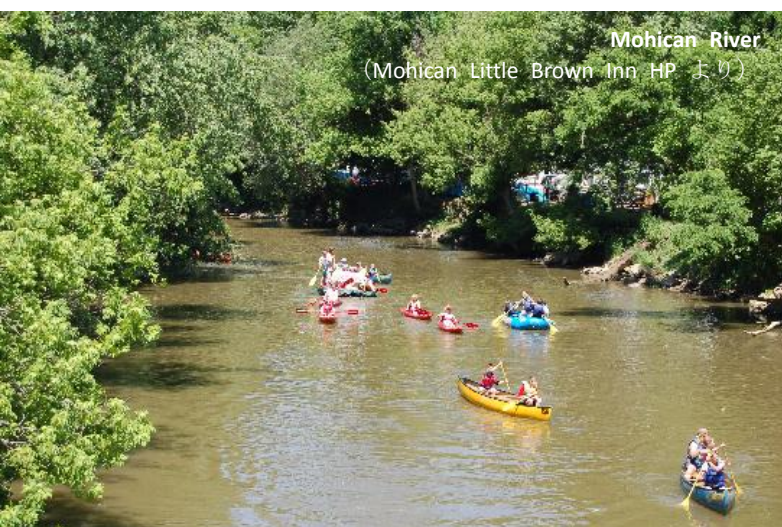
その後アメリカに引越すことになった。そこではまた日本とは違うタイプの川を見ることができた。まずスケールが大きいことが挙げられるだろう。そこで私は毎年夏になると親に連れられ親の友達と一緒にカヌーに行くことが恒例だった。その川はモヒカン川と言い、オハイオ川に合流し最終的にはミシシッピ川へと繋がっている川である。各自たくさんの弁当を作り、たくさんのお菓子とビールを買い込み、それらをアイスボックスに詰めて集合。1日中川なのでサングラス、帽子、日焼け止めも必須である。上流から何時間もかけ、途中休憩やランチを挟みながら下っていった。カヌーの上でお菓子を食べたり大人はビールを飲んだりしながら緩々カヌーを漕いで自然の中をゆっくりする。終わると疲労、筋肉痛が恐ろしかったが、川でそうして皆で過ごす1日は最高で、また仲間との絆もすごく深まるのである。

【Chao Phraya River (タイ)】

またタイのバンコクにも住んでいたが、その川も日本やアメリカといった先進国の川とは全く違っていた。チャオプラヤ川は日本でも有名で知っている人も多いかと思う。タイの川と言えば、水質は非常に悪い。直に触れないように気を付けていた。これから環境改善の動きが盛んになっていけばと思う。しかし、一方でタイの人々にとって川は非常に大切に親しまれている。例えば、水上タクシーや水上マーケットなどが盛んである。観光で水上タクシーに乗る人や水上マーケットに行く人も多いだろう。実は水上タクシーには乗ったことがあるものの、私はまだ水上マーケットには行ったことがない。川のゼミにいる人間として今度タイにまた行く時は是非行ってみたいものである。

以上のようにこれまで色々な川を見てきて、その土地に応じて川と様々な触れ合い方をしてきた。その度に川が人に与えてくれる様々なものを発見できたように思う。これから行く先々で川に注目し、それぞれの異なる特徴や川の側面を発見できることを楽しみにしていきたい。

(次は川畑遼介さんにバトンを託します)



水辺からのメッセージ No.71

岡村幸二 (JRRN 会員)

水に親しみ、水に感謝する：
むかし多くの家庭に自噴井戸あり 水とは切っても切れない大垣



撮影：2015 年 2 月（岐阜県・大垣市 八幡神社境内の自噴井戸）

◆神社境内には「風神」の龍田神社と「水神」の廣瀬神社

八幡神社には度重なる凶作・飢饉から救われるために、古くから奈良県にある龍田神社と廣瀬神社の社が鎮座されています。この八幡神社入口近くを流れる水門川はかつての大垣城の外堀であり、自噴井戸とともに大垣市を象徴する水のテーマとして市民に愛着ある存在です。

◆どこにでも自噴井戸のある「水の都」

大垣市内では深さ 150m の井戸を掘ると地上の 1m 下まで勢いよく自噴水が湧いてきます。このように自噴水をテーマにした“交流広場”が市内いたるところに見られます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

『遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 北九州市長への提案式』開催報告

筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員）

遠賀堀川プロジェクトチーム

1. はじめに

2015年3月15日に北九州市八幡西生涯学習センター折尾分館にて『遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 北九州市長への提案式』を開催しました。2014年7月より4回にわたり市民・大学・行政が一体となって折尾周辺の遠賀堀川の夢を語り合ってきたワークショップ（内容は過去の JRRN Newsletter をご覧ください）の成果を発表したものです。式の内容は表1のとおりです。提案式当日は市民約90名が集い、北九州市長、国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所長、福岡県北九州市土整備事務所所長（代理）にご臨席いただきました（図1～3）。

表1 『北九州市長への提案式』内容

1. 開会挨拶
2. 提案書贈呈
3. 学生による提案内容説明
 - ① 夢の遠賀堀川と折尾駅南口前
 - ② フットパスコースでつなぐ地域の魅力
4. 二大学の教員より
白川直樹（筑波大）、内田晃（北九州市立大）
5. 今後に向けたご助言など
6. 記念撮影
7. 会場からのメッセージ
8. 閉会挨拶



図1 提案式の会場風景

2. 提案の全体テーマ

全4回のワークショップで考えた夢を「夢の遠賀堀川と折尾駅南口前」と「フットパスコースでつなぐ地域の魅力」の2つにまとめ、学生から提案しました。全体のテーマは「歴史と学びが息づく街」としました。

**遠賀堀川の未来を考える
「輪い和い話し夢会議」
北九州市長への提案式
2015/3/15(Sun)**

**北九州市立大学と筑波大学の学生が
「輪い和い話し夢会議」で考えた
遠賀堀川の『夢』を提案します！**

日時・会場
2015年3月15日(日) 11:00～11:40(10:30受付開始)
八幡西生涯学習総合センター折尾分館 第四会議室
(オリオンプラザ4階、JR折尾駅東口より徒歩2分)
※無料駐車場あり(JA折尾店：会場まで徒歩5分)

遠賀堀川の『夢』の提案
駅前・水辺班
折尾駅周辺の開発事業に合わせ、遠賀堀川沿いや駅前広場の活用案を提案します。
フットパス班
折尾の歴史・文化・産業・景観等の資源を活かしたフットパスコースを提案します。
※提案式終了後、13:00より懇親会を予定しております。お気軽にご参加ください。
懇親会 会場：クラウンパレス北九州 参加費：1,510円(※65歳以上の方は1,220円)

主催：堀川再生の会・五平太
共催：北九州市立大学（地域共生教育センター 都市政策研究所）
筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ遠賀堀川プロジェクトチーム
後援：国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所、福岡県北九州市土整備事務所、北九州市
おりん未来21協議会、古賀河川図書館、JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）
参加のご連絡はこちらまで
Eメール：onga.horikawa@yahoo.co.jp 電話：090-9720-3343（堀川再生の会・五平太）
（3月12日までをめどにご連絡ください）

図2 開催案内のチラシ



図3 記念撮影

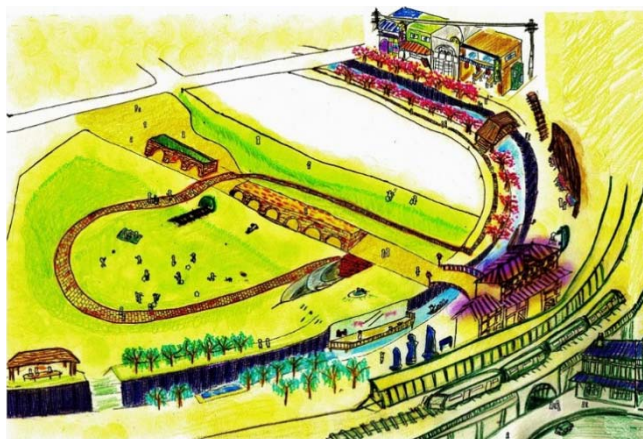


図4 夢の折尾駅前南側広場の全体像

3. 学生提案の内容（1）川沿い駅前広場

3-1. 全体像

私たちが考えた夢の遠賀堀川と折尾駅南口前の全体像を図4に示します。「歴史」（折尾の自慢や誇り）、「学び」（学習意欲の向上）、「居住」（自然、癒し、憩い）という3つの視点から構成しました。

新しい折尾駅南口の前には一面に芝生が広がり開放的な空間が心を躍らせます。レトロ調のレンガ道やねじりまんぼが折尾の歴史を感じさせます。遠賀堀川沿いには梅や柳の並木があり、歩く楽しみを演出します。川沿いに自習室を設置して川を見ながら学習できるスペースを確保しているなど、親しみやすく楽しい駅前になっています。この広場はすり鉢状になっていて、大雨時は洪水調節の機能も発揮します。

3-2. 歴史（折尾の自慢や誇り）

折尾のもつ誇るべき歴史を4つの施設で表します（図5）。駅前の目につく場所に設置される資料館は左右非対称の旧折尾駅舎型とし、川ひらたや遠賀堀川疎水碑、岡山直道頌徳碑を展示します。パネルには日本初の立体交差駅である折尾の歴史を記します。毎日の通勤通学の途中で資料館やパネルを目にするうち、折尾の歴史を深く知り、地元への誇りと愛着が育まれるでしょう。遠賀堀川には川ひらたを浮かべ、舟運の歴史を強調します。



図5 「歴史」の誇りを育む4つの提案



図6 「学び」を促す3つの提案



図7 「居住」の魅力を高める8つの提案



図8 「をりをタイムスリップ小径」ルート図



図9 「時と人が交差する堀川小径」ルート図

3-3. 学び（学習意欲の向上）

現在の折尾は学校の多い「学生の街」です。遠賀堀川沿いの華やかな紅梅並木が学業成就を励まします。川を見ながら学習できる自習空間はオープンカフェならぬ「オープン寺子屋」として世代を超えた学びと交流の場を生み出します。設置された Wi-Fi が調べごとの効率を高めます（図6）。コロッケパンや唐揚げで腹を満たし、青春を謳歌しながら勉強に打ち込めるでしょう。

3-4. 居住（自然、癒し、憩い）

折尾駅南口に行き交い集まる人々が都会の中に自然を感じ、癒され、ひとときの憩いを楽しめるような仕掛けを考えました。歩行者専用の芝生広場は眺めが良く安全で親しみやすい空間となります。遠賀堀川沿いの小滝や屋根付き橋は歩く楽しみを倍増させます。かたつむり状の半地下憩い広場は学生がデザインした夢の空間です（図7）。

4. 学生提案の内容（2）フットパスコース

フットパスはイギリス発祥の概念で、地域に昔からある「ありのままの風景」を楽しみながら歩ける小径のことです。フットパスコースとして外部の人たちから褒めてもらうことで、地域が注目されているという意識が生まれ、その地域をよりよくしていくという動きにつながります。フットパスは地域の交流を促進し地域の人々の意識を変化させる魔法ともいえます。今回は折尾駅を発着点に遠賀堀川沿いをめぐる2つのフットパスコースを作成し、「フットパスコースでつなぐ地域の魅力」と題して提案しました。

遠賀堀川には近代化の歴史を物語る地域資源が数多く残されています。折尾は交通の要衝として今も多くの人々が行き交います。遠賀堀川にフットパスコースを整備することで、多くの人に遠賀堀川の歴史を知ってもらえと考えられます。

「をりをタイムスリップ小径」は菅原神社や旧西鉄電車ガード下などを巡って遠賀堀川沿いに出るコースです（図8）。折尾の歴史を深く知ることができます。

「時と人が交差する堀川小径」は遠賀堀川沿いを南下し河守神社で折り返すコースです（図9）。歩きながら遠賀堀川の歴史を辿ることができます。さらにフットパスコースの途中に銘菓の販売や梅の実採集など「食のおもてなし」を取り入れることで、地域の魅力発信や交流促進につながると考えられます。

5. おわりに

今回の提案は折尾地区の遠賀堀川を活かしたまちづくりの夢です。提案式を開催するにあたり、北九州市、国土交通省遠賀川河川事務所、福岡県北九州市県土整備事務所をはじめとし、多くの方々にご尽力いただきました。感謝申し上げます。今回の夢の提案が1つでも実現することを願ってやみません。

※遠賀堀川プロジェクトチーム：

田中聡大，中前千佳，鴨志田穂高，森本健太，川合君穂，坂本貴啓，白川直樹（指導教員）

【JRRN 会員からの提供情報】

■第 2 回 カワサポ団体登録説明会(4/17 開催)

一般社団法人 ClearWaterProject より、日本初の河川流域環境改善に特化したクラウドファンディング「カワサポ」に関わる説明会のご案内です。

JRRN も本行事を後援させて頂きます。

- ◇日時： 2015 年 4 月 17 日 (金)
19:15~20:45 予定 (受付 19:00~)
- ◇場所： 公益財団法人リバーフロント研究所内 会議室
(東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階)
- ◇費用： 無料
- ◇持物： 筆記用具、名刺 2 枚
- ◇対象： 流域環境改善に取り組む団体、個人(結果として水辺に良い環境を与える活動であれば可。
Ex, 林業、農業)
- ◇内容： カワサポのサービス、登録の仕方、成功事例等の説明、情報交換
- ◇主催： 一般社団法人 ClearWaterProject
- ◇後援： 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ◇申込： メールにてご連絡下さい
support.jp@clearwaterproject.info

◆カワサポについては以下参照

<https://www.kawa-supporters.net/>

◆説明会チラシのダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2006.html>

2015 年 4 月 17 日 金曜 19:15~

第 2 回
カワサポ団体登録説明会を開催します

一般社団法人 ClearWaterProject

カワサポとは?

「カワサポ」は、流域環境改善に取り組む団体をWEB上でクラウドファンディングを使って応援するWEBサービス。
各団体のプロジェクト実施に必要な資金を、WEB上で広く支援を募る仕組みです。
登録団体は、実施したいプロジェクト内容と、目標額、募集期間、趣意を明示してカワサポサイトで支援を募集します。一般市民はカワサポを見て共感できるプロジェクトがあれば、支援を表明します。期間内に目標額を達成すれば、団体に支援金が渡ります。
また、ブログ機能や団体紹介ページも使え、広報や仲間集めに役立ちます。
カワサポに登録して、広く支援を募りませんか?

流域環境の改善に特化した、日本初のクラウドファンディング

開催概要

- ・日時 2015 年 4 月 17 日 金曜 19:15~20:45 予定 開日 19:00~
- ・受付 公益財団法人リバーフロント研究所内 会議室
- ・場所 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階
- ・費用 無料
- ・持物 筆記用具、名刺 2 枚
- ・対象 流域環境改善に取り組む団体、個人 (結果として水辺に良い環境を与える活動であれば可。Ex, 林業、農業)
- ・内容 カワサポのサービス、登録の仕方、成功事例等の説明、情報交換
- ・主催 一般社団法人 ClearWaterProject
- ・後援 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・申込 メールにてご連絡下さい support.jp@clearwaterproject.info

お問い合わせ先・参照 URL

- ① 一般社団法人 ClearWaterProject <http://clearwaterproject.info/>
- ② カワサポ <https://www.kawa-supporters.net/>
- ③ お問い合わせ先 support.jp@clearwaterproject.info

【JRRN 会員からの提供情報】

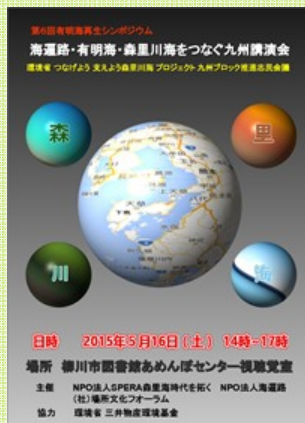
■「第 6 回有明海再生シンポジウム『海遍路・有明海・森里川海をつなぐ九州講演会』環境省 つなげよう支えよう森里川海プロジェクト九州ブロック推進市民会議」(5/16 開催)

「矢部川をつなぐ会」より御提供頂いたイベント情報です。環境省では「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトチームが動き始め、柳川でも関連のシンポジウムを開催することとなりました。

- ◇主催： NPO 法人 SPERA
森里海時代を拓く、NPO 法人海遍路
- ◇協力： 環境省 三井物産
環境基金、(社) 場所文化フォーラム
- ◇日時： 2015 年 5 月
16 日 (土) 14:00~
- ◇場所： 柳川市図書館あめんぼセンター視聴覚室
所 (福岡県柳川市)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2000.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2015 年 3 月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、2015 年に予定されている RRC 主催の講演会や現地研修案内、4 月の洪水管理研修、他 RRC が関係する各種行事を中心に紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1997.html>

◆RRC (英国河川再生センター) HP はこちら

<http://www.therrc.co.uk/>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■第2回 カワサポ団体登録説明会 ※前頁参照

○日時：2015 年 4 月 17 日 (金) 19:15～

○主催：一般社団法人 ClearWaterProject

○場所：公益財団法人リバーフロント研究所 (東京都中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2110.html>

■琵琶湖外来魚駆除大会

○日時：2015 年 4 月 19 日 (日) 10:00～15:00

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：滋賀県草津市津田江 1 北湖岸緑地 (滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2105.html>

■第6回 有明海再生シンポジウムー海遍路・有明海・森里川海をつなぐ九州講演会 ※前頁参照

○日時：2015 年 5 月 16 日 (土) 14:00～

○主催：NPO 法人 SPERA 森里海時代を拓く 他

○場所：柳川市図書館あめんぼセンター視聴覚室場所 (福岡県柳川市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2108.html>

■第7回 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウム in 熊本～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

○日時：2015 年 6 月 12 日 (金)～13 日 (土)

○主催：応用生態工学会

○場所：熊本市国際交流会館 (熊本県熊本市) 他

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2097.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。(JRRN 事務局)

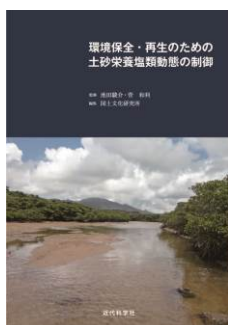
(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum
- 2015.6.15-19(Provence/フランス) River Restoration; Geomorphic and Ecological Tools
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2015.6.30-7.2(Wageningen/オランダ) Int. Conf. on River and Stream Restoration
- 2015.8.2-7(シンガポール) 7th APHW Conference
- 2015.9.21-23(ブリスベン/オーストラリア) 18th international Riversymposium
- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.28-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 Publications

■ 環境保全・再生のための土砂栄養塩類動態の制御 (2014.10 発刊)

- ・監修：池田駿介・菅 和利
- ・編集：国土文化研究所
- ・出版社：株式会社近代科学社
- ・価格：4,000 円＋税
- ・出版年月：2014 年 10 月

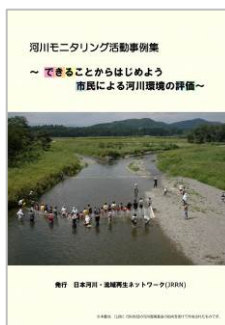


JRRN 事務局を共同運営する (株) 建設技術研究所国土文化研究所より 2014 年 10 月に発刊されました。

本書は、陸・川・海における水・土砂栄養塩類の移動・制御、およびそれらが生物・生態系に及ぼす影響を野外や実験室において行った研究の成果など、自然環境再生に向けた新たな視座が紹介されています。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

※本冊子の入手方法

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご
参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

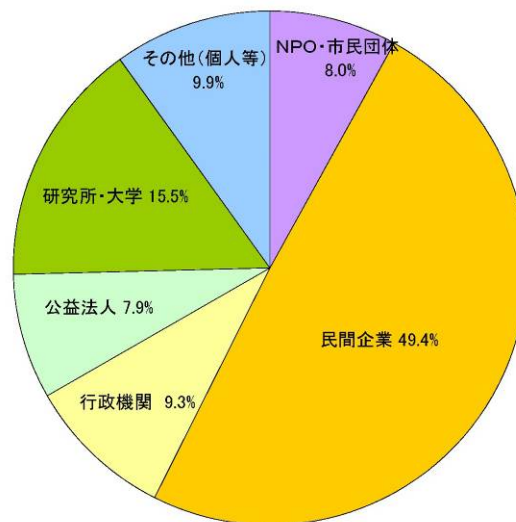
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信され
ます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年3月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：683名、団体会員数：55団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

